

令和2年度第3回あま市総合計画審議会 会議録要旨

日時 令和3年3月18日(木)
午前10時から午前11時40分まで
場所 あま市役所 本庁舎 2階 大ホール

1 出席者等

出席者等(委員) 13名
(事務局) 6名
(傍聴者) 2名

2 会長あいさつ要旨

前回も同様の議題で議論したが、アンケート調査結果においてクロス集計され、委員からいただいた意見を踏まえて修正等もされていると伺っている。また、骨子案についても追加された内容などもあると伺っているので、本日も、活発に意見をいただきたい。

3 議題

第2次あま市総合計画基本構想(骨子案)について

【第2次あま市総合計画策定等に関するアンケート調査 調査結果報告書(令和3年3月)】(資料1)
(説明要旨)

- 資料1により市民アンケート調査結果について報告。
- 前回の総合計画審議会で説明したアンケート調査結果報告書の各設問について、年代別、地区別にクロス集計したものである。前回の審議会で見解をいただいた箇所や、今回クロス集計により、特徴的な結果が確認された箇所を中心に説明する。

II 調査結果

(2ページ)

- 回答者の属性のうち、年代別発送数、有効回収数を表で掲載した。
- 前回(平成28年度)、前々回(平成22年度)のアンケート調査の有効回収数も掲載した。なお、前回、前々回の調査における年代別発送数までは事務局で確認できなかった。
- 今回の発送数における年代別の割合については、アンケート調査対象者を無作為抽出した令和2年10月現在のあま市の年代別人口の割合とほぼ一致していることを確認した。傾向として、人口割合は、40代が多いことが確認できた。また、年代別の発送者の割合と有効回収率を比較すると、20代、30代の有効回収率が低い傾向が確認できた。
- 前回の年代別有効回収率の比較については、前回調査と設問を一部変更しており、今回は18歳以上の10代や、60代、70代の方について、分け方を前回と変えているため、正確な比較はできないが、おおむね10代から20代、30代から40代、60代以上の範囲で比較すると、前回調査と有効回収率の割合は、似たような傾向が確認できた。

(19 ページから 21 ページ)

- 19 ページから 21 ページにかけて、35 項目の施策の満足度、重要度について、地区別の分布図を掲載した。特徴的な傾向が見られた箇所は、以下のとおり。
- 主に「都市基盤の整備」に関して、地区別で特徴が見られた。
- 「13 生活道路の整備」は、3 地区ともに「重点エリア」に位置している。
- 「17 幹線道路網の整備」は、14 ページの 3 地区を合わせた分布図では、グラフの左下「促進エリア」に位置しているが、七宝地区、美和地区は、グラフ左上「重点エリア」に位置している。
- 「14 鉄道やバスなどの公共交通機関」は、3 地区とも重点エリアであるが、特に美和地区と比べて、七宝地区、甚目寺地区は満足度が低い傾向がみられる。
- 「15 駅前などの拠点整備」は、地区ごとに満足度にばらつきがある。七宝地区が最も満足度が低く、甚目寺地区が最も高い結果となり、七宝地区、甚目寺地区が「促進エリア」に位置する一方、美和地区については「重点エリア」に位置している。

(22 ページ)

- 今後一層力を入れて取り組んでいくべき基本目標についての設問は、年代別、地区別ともに現在の総合計画における「【基本目標 1】安全が確保され、安心して快適に暮らせるまち」、【基本目標 2】心身ともに健康で、いきいきと暮らせるまち」が非常に高い回答割合となっている。この点については、基本構想において、本市における主要課題として整理した。

(24 ページ)

- 「住宅地の土地利用」についての設問は、美和地区で「スーパーマーケットなどの商業施設や病院などの生活利便施設の立地を促す」が多く、七宝地区、甚目寺地区で「鉄道やバスなどの利用しやすい交通環境の充実を図る」が多くなっている。

(26 ページ)

- 「商業地の土地利用」についての設問は、「駅前や幹線道路沿道の今ある商店街などの維持や活性化を図る」が美和地区、甚目寺地区に比べて、七宝地区で低い回答割合となっている。

(32 ページ)

- 「道路などの整備」についての設問は、特に七宝地区で「幹線道路の整備」における重要度が高い回答割合となっている。

(49 ページ)

- 「福祉対策について、特に支援が不足していると感じるもの」については、表において、年代別、地域別それぞれで最も割合の高かった項目に色をつけている。10代から40代と50代以上で項目が分かれており、年代に応じた支援が必要であると考えられる。

(75 ページ)

- 「新型コロナウイルス感染症の影響による生活における不安」については、「外出時の制限」が全体的に高い割合を占める中で、10代から50代では「収入の減少」に対する不安も高い割合を占めている。

(自由意見について)

- 42 ページ、76 ページから 77 ページ、79 ページから 85 ページに自由意見の回答を掲載しているが、各設問において、意見の多かった内容をテーマごとに分け、そのテーマごとに代表的な意見を4件程度掲載した。

- このアンケート調査結果を基本構想へ反映していく。

(主な意見等)

なし

【第2次あま市総合計画基本構想（骨子案）（令和3年3月現在）】（資料2）

【施策の体系新旧対照図】（資料3）

(説明要旨)

- 本日示した基本構想（骨子案）は、前回の審議会での意見を踏まえて一部修正したものである。主な変更箇所について説明する。

(19 ページ)

- 前回、市民会議会長から会長へ提言された提言書の写しを掲載した。

(22 ページ)

- 近年の災害による防災意識の高まりや新型コロナウイルス感染症拡大に伴う懸念などの本市を取り巻く問題や、今年度実施した市民アンケート調査や市民会議での市民の意見を踏まえ、本市における主要課題を整理したものである。
- 主要課題の1つ目「(1) 安全・安心な日常生活の確保」については、近年の社会情勢からも必要性は強く感じられるが、アンケート調査結果（問8）においても、「安全が確保され、安心して快適に暮らせるまち」づくり、「心身ともに健康で、いきいきと暮らせるまち」づくりに今後一層力を入れて取り組んでいくべきとの声が圧倒的に多い結果となっていることから、「(1) 安全・安心な日常生活の確保」を主要課題と整理した。
- 主要課題の2つ目「(2) 多様な交流による地域の魅力・活力の向上」については、先ほどの総合計画策定市民会議の提言書においても意見をいただいた、地域の魅力と活力を引き出すことを主要課題と整理した。
- 主要課題の3つ目として、「(3) 持続可能な行政経営の推進」を主要課題と整理した。

(24 ページ)

○あま市の将来像（案）については、前回の審議会で説明し、意見もいただいているが、いま一度、前回いただいた意見を踏まえて事務局内で検討を進めているところである。また次回、令和3年度第1回目の審議会で示せるように、市長の思いも踏まえながら、提案したいと考えている。なお、将来像の方向性としては、基本理念に掲げる、共創、持続可能、次世代への3つを踏まえた将来像を考えている。

(26 ページ、28 ページ)

○土地利用計画については、土地利用方針と土地利用方針図を掲載している。土地利用方針については、現在、都市計画課において策定を進めている都市計画マスタープランと整合を図り、現時点での案という形で掲載している。引き続き、都市計画課と調整を図りながら、適宜、細部について修正をする予定をしている。

(29 ページ)

○第2章として、あま市の基本目標と施策の大綱を掲載している。
○現行の計画の施策体系として、基本目標、また、施策の大綱については、本日配布した資料3のA3資料の左側で示しており、現在は5つの分野別の基本目標と15本の施策の大綱で構成している。
この基本目標の分野ごとの施策の方向性をより明確に示したいという考えのもと、第2次の総合計画における案として、資料3の右側に、7本の基本目標という形で、少し修正を加えている。

- 以下、主な修正箇所について説明。
- 資料3、左側の現行の施策の大綱から、右側の第2次総合計画における施策の大綱の案への変更内容について、色つきの枠を使い、動きを示している。
- 第2次総合計画の基本目標の7本のうち、まず、基本目標1「安全で安心に暮らせるまち」は、現行の計画の中で基本目標の1にある、1-1と1-2の施策、主に消防、防災、防犯、交通安全の分野を新しく基本目標1と整理した。
- 基本目標2「都市基盤と環境が整った快適なまち」は、現行の計画の1-3と1-4の施策、都市基盤、公共交通、道路の分野、2-3の施策、自然環境や自然問題の分野を新しく基本目標2と整理した。
- 基本目標3「心身ともに健康に暮らせるまち」については、現行の計画の2-1と2-2の医療福祉、社会福祉の分野と、3-2の生涯学習やスポーツの分野を新しく基本目標の3と整理した。
ただし、現行の2-2の子育ての分野については、新しく基本目標の4とし、「次代を担う人を大切に育てるまち」と掲げて、子育て施策と、現在の3-3で掲げる学校教育の分野の施策を4-1、4-2として新しく整理した。
- 基本目標5「自らの力で歩み続ける、活力のあるまち」として、現行の商工業、農業、観光の分野、現行の計画の3-1に位置する、歴史と伝統の保存継承などの分野を新しく基本目標の5と整理した。
- 基本目標6「持続可能な行政経営を推進するまち」として、現行の計画の4-2の行政改革、広域行政などの分野と、現行の計画の5-1の中で一部、情報提供、情報公開の

分野、それから、現在の3-1のシティープロモーションの分野を新しく基本目標6と整理した。

○基本目標7「交流と連携により成長するまち」として、現行の計画の基本目標5、市民協働、人権に関する分野について、新しく基本目標7と整理した。

ただし、「交流と連携により成長するまち」に関しては、先に説明した基本目標1から6の全てに横断的に関わる施策であると考えているため、29ページの資料にもあるとおり、横断的に基本目標(1)から(6)へ反映という形で矢印をつけて示している。こちらは、事務局の案であるので、委員の皆様の意見をいただきたい。

○また、施策の大綱で、例えば1-1の消防・救急体制や防災対策など、太文字で書いてある言葉については、来年度、基本計画を策定していく際に、もう少し具体的に言葉の肉づけをして、施策の大綱として整理していきたいと考えている。

(30ページ~33ページ)

○ただいま説明した施策の大綱ごとに説明を掲載している。

(主な意見等)

○委員

基本構想の4ページに、10年先を見据えて計画を立て、基本計画は5年を目途に見直すと書いてある。10年というのは分かるが、10年後はどのようにするのか、また、この構想の中で、財政措置はどの程度10年で必要となるのかが全くここで触れられていない。そのあたりの考え方、将来の考え方について聞きたい。

○事務局

基本構想については、4ページ目にも記載があるとおり、今後10年間でまちづくりの理念と目指す将来像や、それを実現するための基本目標や施策の大綱という大きなことが書いてあるのは、承知している。

行財政的な部分の反映については、4ページに、実施計画として、「基本計画で定めた施策について、行財政などに配慮しつつ、具体的な取組を課や係の行動計画として示します。」としており、実施計画で、個別具体的に反映できるように、今年度、来年度、策定する中で考えていきたい。

実際に財政状況は厳しいということに加えて、昨今のコロナ禍において、なかなか先の見通しも立たないところはあるため、前向きな実施計画を策定することも現実、当面は難しいと思うが、できる限り財政を効率的に活用できるような施策を実施計画の中で示していけるように、事務局を中心として、庁内全体で考えていきたい。

○委員

あま市が、持続ある行財政改革を進めていく上において、財政的な負担のことも考えてこの質問をしたが、人口の減少、税収の減少も踏まえた中で、この計画が果たして10年を目途に実現できるかということを考えたときに、目標があまりにも高すぎると、非常に危惧する。

○事務局

基本構想で大きな方向性は示し、その下で基本計画、もっと細かく実施計画というような、施策の細分化をする構成により、柔軟な対応ができる位置づけとしている実施計画を有効に活用していきたいと考えている。

○会長

基本構想の位置づけは、今後、基本計画、実施計画を作っていくための考え方を示すものであるため、行財政についてもきちっと管理、見ながらやっていくということここでは確認するという事なので、恐らく13ページに財政状況の把握があり、基本目標6でも挙げられているので、その方向性に間違いがないということであれば、この内容で良いと思う。

○委員

アンケート調査の意見をどうやって反映させるか。意見は、基本構想の中に入っていると言われたが、何割ぐらい入っているか分からないが、これをそのまま意見としてただ取り上げただけにするのか、少しでも実施に向けてやるのか、その辺が非常に難しいと思うが、これは大事な意見であるので、少しずつでも実施していただきたいと思う。また、この実施計画を各課や係の行動計画としますと書いてあるが、この計画を策定する課が各部署に命令を出すのか、それともこういうことを総合計画で考えていますよというのを各部署に出して、各部署がそれを見ながら実施に向かっていくのか。では、来年は何をやる、再来年は何をやる、というところまでの計画を示していくのか、どういふふうに進んでいくかについて知りたい。

○事務局

アンケート調査の活用については、委員が言われたとおり、このアンケート調査を3,000名の方に対して実施し、貴重な意見をいただいたと認識している。アンケート調査の報告書の1ページ目の1調査目的にも記載があるように、「第2次あま市総合計画の策定にあたり、市民の意識を再確認し、『第2次あま市総合計画』の策定と今後のまちづくりの参考とする」という目的で行っており、全ての分野に関わる施策について幅広く聞き取りをした貴重な意見というのは我々、企画政策課だけではなく、全ての課に周知して反映して、活用できるものであると考えている。今後、各担当課や係へ周知し、このアンケート調査が幅広く市の施策に有効に活用できるように進めたい。

もう一点、実施計画の各課や係との連携について、資料2の4ページ目には、具体的にはまだ掲載していない部分はあるが、考えとしては、各課、係のほうへ毎年度、この計画に基づいた施策を説明し、そこから各施策今年度どういった目標をベースに1年間行っていくか、事前に計画を立て、それを我々のところで検証をするPDCAサイクルを活用していきたいと考えている。

○会長

アンケート結果をこの会議で見るだけではなく、きちっと公開されるものなのか、あるいは、それが常に見られる状況、あるいは総合計画の中の後ろのほうに結果をそのまま入れて公表するなど考えているか。

2点目のPDCAという話があったので、可能であれば、4ページのところに、今のPDCAのようなことを書いて、必ず市のほうで総合計画に則って各部署がやっているということを確認しますということをも明記したほうが市民は安心するのではないかと思います。

○事務局

アンケート調査結果報告書については、この後、皆さんの意見をいただきながら内容を確定したものを市公式ウェブサイト上で公表する予定をしている。

また、提案いただいた4ページ目のPDCAサイクルの実施計画の進め方についても掲載を前向きに検討していきたいと考えている。

○委員

総合計画の概要版を作成して、各施設に配布して市民に知らせていく義務があると思う。

○事務局

今年度、来年度で計画書を策定した後、概要版も作成し、施設への設置や、希望した市民に配布を考えている。また、同様に、市公式ウェブサイトにも掲載を考えている。

○委員

24ページの将来像のところ、検討中というのがどういうふうに検討されていて、どういうプロセスで出てくるものなのか聞きたい。

○事務局

将来像の進め方に関して、前回の第2回審議会で、「持続可能な魅力を育むセーフティー共創都市あま」という案を示し、委員の意見をいただいたところで大変恐縮であるが、将来像の方向性としては、基本理念の「共創」、「持続可能」、「次代へ」というところを踏まえた将来像にしたいという考えに変更はないものの、市民の皆様にも、市外の皆様にも印象づけられるような将来像を現在考えており、今日の段階で公表できるというところに至っていない状況である。

○委員

29ページ4番目の「次代を担う人を大切に育てるまち」というところで、子育て、幼児教育と、生まれたところからの学校教育も入れていただいているが、次代を担うといったときに、もう少し、後ろの話もあっても良いと思う。

例えば、未来創造塾など、10代後半から20代前半の若者向けにまちづくりに関わってもらい取り組みも市の中でされていると思う。次代を担う人を大切に育てるというのはどこまでの範囲かというのもあると思うが、学校教育の部分で止めずに、その後ろも次代を担う人材をどう育てていくかというのが、ここにもう一個くらい項目立てられていてもいいのではないかと思います。

また、今までアンケートで出ている声も、実情を分析していただいたときに、課題とか現状がどうなっていきたいかというのと、それぞれの施策や、この7つの項目がどう紐づいているかがもう少し分かりやすくなると、これを読んだ人にも伝わりやすいものになると思う。

○事務局

基本目標4「次代を担う人を大切に育てるまち」の施策の大綱の整理の仕方として、未来創造塾などの学校教育以降の若者の施策について、今いただいた意見を踏まえて、来年度、1回目の審議会で反映できるように検討を進めていきたい。

また、主要課題との施策の大綱の整理についても、委員が言われるように、やはり課題があつてのこういう施策であるというところは感じ取っていただけるように、今いただいた意見も踏まえた計画書の整理ができるようにしたい。

○委員

課題に対応するという話になるとどうしてもネガティブというか、大変だからこうしたという話になるかと思うが、一方で、あま市はこうなっていきたいんだみたいな、そういう書き方をされていると、読むほうもわくわくするという気がする。

○会長

恐らくそういう書き方をしているところはたくさんあると思うので、ネガティブにならずに表現できるのではないかと思う。

○委員

あま市になってまだ10年で、これからの未来がすごく期待できるまち、というふうに外から見てほしい思いがある。せつくなので、この10年でどう育て、これからどう育てていきたいかを沿革に触れていただけると嬉しい。

立地だとかいろんな特色を生かした計画みたいなものが、もう少し出てくると、わくわくするかなと感じた。

あと、今後、課を超えて連携していくことはすごく重要と思っている。暮らす人々は、高齢者とか、子供とか、人生は全ての課を横断しているわけで、課を超えた計画というところをどこかにうたっていただけると良いと思う。

○事務局

1点目の資料の2の6ページ目の沿革のところについては、意見のとおり、事務局でも、あま市のこれまでの10年とこれからの先の未来というところの記述は必要と考えている。本日の資料にまとめていないが、そのような方向性での掲載を考えている。

2点目のあま市の特色を入れるということに関しては、今の意見を踏まえて考えたい。

3点目の課を超えた各個別施策の分野の反映、意識づけについては、先ほど説明した施策の体系でも少し触れているが、第2次総合計画の基本目標7「交流と連携により成長するまち」の中で、市民協働や人権については、7の基本目標、施策の方向性を基本とし、1から6の個別分野の施策をやりますと整理した。後は、この計画に基づいて、各課がきちんと意識を持ってこの計画に基づいた施策を行っていきけるような、周知、啓発をしていきたいと思っている。

○会長

今の意見に関連して、沿革が計画書の書き方で、重きというか、今言われた思いであれば、例えば2ページや、もっと前のほうに書いたほうが良いと思った。

それから、課を横断的にという、これは、非常にどこの自治体でも重要なことでできていないというか、あま市が、しっかり取り組むのであれば、施策の体系の6も関わるのではないかと思ったので、それも併せて検討いただきたい。

7-2の男女共同参画という言葉について、男女という言葉よりも恐らくダイバーシティという言葉のほうが世界的には普通で、例えばSDGsを今回掲載していただいたが、男女という言葉は、LGBTのこともあるからダイバーシティという言葉に置き換えられたほうが、今後10年、そういう方向にもっと日本はシフトしていかなければいけないと思っている。

また、施策の大綱が横向きに掲載されているが、やはり縦が良い。資料3みたいな形であればA4でも当然縦書きで載ると思う。先ほど意見があったこれまでの課題と併記するとなれば、A3にして折り込みか分からないが、いちいち冊子を横向きにするという体裁はあまり好ましくないように思う。

○事務局

施策の大綱の載せ方は、29ページに、横向きで載せているが、今、会長が言われたような横向きで見開きなのか、2ページにまたがってなのか、載せ方は検討したい。

○委員

全体を読んでいたときに、働く場所としてのあま市という観点がどのくらい考慮されているのかということも思った。次世代に対して働く場所として、あま市をどうしていくのかというようなことが、もう少し前に出ても良いと思った。

○事務局

32ページの中の記載として、「雇用機会の創出や就業環境の整備など、勤労者福祉の充実に努めます」という一文は載せているが、具体的な施策については、その下の基本計画の中で、委員の意見も取り入れながら示せるように作りたい。

○委員

具体的にどんな課題が今のあま市の商工業にあって、それに対して何をしていかなければいけないのか。

アンケートを見ても、誘致の話やそういうところには関心があるが、実際に企業はどうなっているかという話は、そもそも意見を出す出さないの前に知らないのではないかとも思うので、具体的に見えると良いと思った。

○会長

28ページに土地利用方針図があって、これは都市計画マスタープランの図だと思うが、その中には産業誘導候補地として、斜線が引いてあるエリアがたくさんあるということは、これからどんどん産業誘導をしていきますという都市計画のプランであると思う。都市計画マスタープランは総合計画に則って策定するとなっているので、総合計画の中できちっとこれからも産業誘導していきますということが明確に書かれていないとこの都市計画マスタープランは書けないはずであるが、それが伝わりにくくなっていると思う。

今こういう問題、課題があり、それに対して市として人口フレームしか載っていないが、産業フレームはここには書かないのか。

○事務局

産業フレームは、今のところ書く予定はない。

○会長

書く必要はないというか、都市マスには書かれていると思うが、いずれにしても読まれた方が分かるようにしたほうが良いと思う。

○委員

この計画を見ると、今ある状況を継続しながら変えていくという観点が強いのではないかと思う。極論を言うと、もっとスクラップしてビルドする。壊さないと新しいものはできないという気はする。

可能ならば、こういったところを壊しましょうと、今までと変えていきましょうと、大きく変えましょうというようなものも含めても良いと思う。

○事務局

旧町地区にこだわるのではなくて、あま市はあま市として一体にならなければいけないという考えは常に持っているので、いただいた意見を踏まえて変えていきたいと考えている。

(休 憩)

○委員

あま市らしさというものをつくっていくには、あまりに無難な感じの印象を受けている。大きく壊すとかは難しいのかもしれないが、逆に歴史が浅いあま市だからこそ、少し特色ある大胆な取組があっても良いと思う。

○委員

コロナの関係で、子供たちの学校教育の環境、IT化というか、オンラインなどいろんな場面があるというふうに言われているが、学習能力が低下したというような状況は今のところはどうか。

こうした状況の中で、あま市の今の小中学校を含めた教育の在り方は今後、将来に向かってコロナが長期にわたった場合の展望はどうか。

○委員

コロナ禍での状況というのはニュース等でも報道されているため、大まかなことは一般的になっていると思うが、学校で今回の状況で一番大きく変わってくるのが、タブレットが1人1台ということである。

また、1クラスの人数が35人学級に順次なっていく。今は1年生、2年生だけであるが、これが3、4、5年生と上へ上がっていく。35人学級というのは良いと皆さん思われる

と思うが、実際の場合、学校によっては空き教室がないのでどうしようかという問題になる。

タブレットについても、どうやって授業で使っていくかということがこれからの課題である。

すぐには実現化しなくても、これぐらいのことはというものをもう少しこの計画の中に織り込めたら、ひょっとしたら実現化する可能性も十分あると思う。

それから、タブレットについて、高齢者の方にタブレットを使ってもらうような方策をしていって、あま市の高齢者は皆タブレットを使えるよというような社会にしていくのも必要ではないかと思う。

そういったことがここに織り込めるならば、取り込んで良いと思う。

○委員

前回、あま市とSociety5.0のつながりが分からないと意見したが、別に反対というわけでは全然なく、むしろ、今はニューノーマル、コロナの時代という中で、学校も、働き方という意味では在宅ワークも含めて、みんな使っていかなければいけない時代になると考えたときに、ツールだけがそこにあればいいわけではなくて、それをどう使いこなすかというところで、そこにもう少し専門知識を入れる、例えば専門的にICTの支援をされる方をきちんとつけないとか、あるいは学校だけではなくて、企業にしてもICT・IoT化というのを進めていくために市でサポートしますとか、そういうのがあったりというのも、面白いのではないかと思う。

あと、モビリティ、移動手段に関して、新しい可能性ということを都市計画マスタープランのほうでは言われていると思うが、アンケートのほうでも公共交通機関の話は上がっているが、もう少し市の中を皆さんが自由に行き来できるような交通手段や、それは多分高齢者の足としてというような福祉の観点でも考えられるとは思うが、新しい交通の可能性なども、もう少し考えられて、都市計画マスタープランとの整合性で入れても良いかと思う。

○事務局

Society5.0が非常に求められているということは強く感じているが、なかなか具体的にどう進めていけばいいのか、模索中である。ただ、必要性は高い、重要な施策だと認識しているため、計画書にもしっかりと載せて、なるべく1人でも多くの職員はじめ市民の皆様がそういったSociety5.0の時代に活躍できるような方向へ持っていきたい。

また、モビリティについて、これもかなり難しい話ではあるが、時代が今そういう時代に向かっているので、計画への表現の仕方、載せ方をどの程度にするのかは検討したい。

○委員

本来なら名古屋に働きに行くべき人が自宅に居ながら、在宅ワークだとかいろんな働き方が多様化する中で、そういったことができる環境をつくっていくのを都市に隣接したあま市の状況にマッチした計画を模索していくところではないかと思っている。なので、IT都市あま市が大胆なのかというと、実はそんなに大胆でもなく、逆に言う

と、それを盛り込まないと遅れていくというところではないかと思う。

○会長

いただいた意見を踏まえて、また基本構想骨子を検討、修正いただきたい。

4 その他

○事務局

次回の日程がまだ決まっていないため、後日、開催通知を送付する。